



AGS Jレスキュー技術講習会 団体講習会のご案内



平成28年度版

主催：(一社) 社団法人日本アルパインガイド協会・遭難対策委員会

レスキュー技術の団体講習会

一般社団法人日本アルパインガイド協会では正しい登山技術の普及とともに、遭難対策技術の普及に努めています。毎年フランス国立登山スキー学校（ENSA）での技術研修を行うとともに国内においても協会員の技術研修を行っています。そこで多くの登山者の一助となれることを願って、実践的レスキュー技術講習会、及びレスキュー技術の団体講習会を催しています。

自治体防災関係者、山岳レンジャー、山岳救助隊、学校山岳部、ワンダーフォーゲル部、探検部、職域山岳会、社会人山岳会におけるレスキュー技術講習会へ講師としてガイドを派遣致します。御希望の場所、内容、日程で講習会を行うことが出来ます。各団体に合った技術アップを図ることが一層の安全登山に繋がるものと思います。日本国内どちらへも派遣致します。御検討賜りますようお願い申し上げます。

平成28年4月1日 AGS-J遭難対策委員会

講習内容について

レスキュー講習会の内容については、御依頼団体の御希望により対応いたします。

よって御打ち合わせの上で決定いたします。一般的な例として下記に岩場でのレスキュー技術講習項目を列記いたします。

(例) 岩場でのレスキュー技術

- ① 救助用支点の作り方
- ② 救助用ロープの結び方、とその使い方
- ③ 仮固定の方法
- ④ 自己脱出
- ⑤ 懸垂下降中ブロックした際の救助法
- ⑥ 引き上げ技術（1/2、1/3、1/4、1/5、1/7）
- ⑦ 降ろし技術（一人での降ろし技術法、二人以上での降ろし技術法、ロープの継ぎ足しでの降ろし技術法、結び目通過方法、等）
- ⑧ オーバーハングでの宙吊りからの救助技術
- ⑨ レスキューシートの使い方、ロープ担架の作成方法
- ⑩ 固定ロープの張り方（チロリアンロープ含む）
- ⑪ 基礎技術の机上講習

●レスキュー講習種類別としては、次の内容となります。

- ・ 岩場でのレスキュー技術講習
- ・ 雪上でのレスキュー技術講習
- ・ 氷河上でのレスキュー技術講習
- ・ 山岳スキーでのレスキュー技術講習

●レスキュー技術検定について

団体でのお申し込みでは、講習及びレスキュー技術検定をご希望により実施することが出来ます。しかしながら、検定の内容につきましては初級、中級、上級の3種に分かれ検定項目も決まっていますので、検定の内容変更は出来ません。また、レスキュー検定では岩場でのみの対応となっています。次の内容となっています。

(初級レスキュー技術検定)

- ① レスキューに必要なロープの結び方、使い方 (半マスト結び/仮固定の結び/固定の結び/フリクションヒッチ/中田システム)
- ② 支点技術 (流動分散、固定分散の技術/荷重角度についての技術/アジャスト可能なスリングの使い方)
- ③ 懸垂下降技術 (半マスト結びでの下降/他の器具を使用しての下降技術/懸垂下降での二人降り)
- ④ ロープの振り固定技術 (確保時の仮固定/懸垂下降時の仮固定/リード確保時の脱出)
- ⑤ パートナーの降ろし技術 (背負ってのカウンターラッペル/補助しながら歩いてのカウンターラッペル/補助者の操作による背負い降ろし)
- ⑥ 緩傾斜での1/3、1/5、1/7の引き上げ技術
- ⑦ 固定ロープの張り方
- ⑧ 自己脱出技術
- ⑨ 怪我人の応急処置、ネット担架の作成技術、搬送技術

(中級レスキュー技術検定)

- ① 支点のセット、レスキュー器具、ロープの使用方法 (基礎技術)
- ② 結び目の通過技術 (基礎技術)
- ③ 垂壁での自己脱出技術 (基礎技術)
- ④ 背負っての搬送技術 (基礎技術、山道100mほどで行う)
- ⑤ 垂壁での引き上げによる救助技術10m以上
中級=3分/m以内を合格ラインとする。
2種以上のシステム(1/3 1/5 1/7等)を使用する。
- ⑥ 垂壁での背負ってのカウンターラッペルによる降ろし技術20m以内とする。
- ⑦ 垂壁での降し技術、背負い担当、ロープ操作担当の両方行う。
- ⑧ 垂壁での懸垂下降中のトラブルからの救出技術(上方からの救助、下方からの救助)
- ⑨ ネット担架の作成(全身用、半身用、岩壁での作成方法)
- ⑩ 応急処置(足の骨折・捻挫、腕の骨折)

(上級レスキュー技術)

- ① レスキュー器具、ロープの使用方法 (基礎技術)
- ② 引き上げ技術、条件付き自己脱出技術
- ③ 懸垂下降中のトラブル救助(上方からの救助、下方からの救助)
- ④ ENSA型背負い降し技術
- ⑤ ストレッチャー、ネット担架での降し技術(全身担架、半身担架)
- ⑥ 背負ってのカウンターラッペルによる降ろし技術(ロープ長分の距離50m)
- ⑦ オーバーハングの下降技術
- ⑧ ランナーの回収、支点回収技術
- ⑨ オーバーハングでの宙吊りからの救助技術
- ⑩ トラバースルートでの救助技術
- ⑪ 応急処置(足の骨折・脱臼、腕の骨折、頭部の怪我)
- ⑫ 支点のセット理論と墜落の力学、安全管理(筆記試験、4者択一、記述、20問)

御依頼について

(団体講習を依頼されるには次の内容を満たすことが条件となります。)

団体での受講の際に受講される方は全員が遭難対策に興味をもって取り組める方。山岳遭難保険に全員が加入しているか、加入できること。山岳保険については弊協会指定の山岳保険加入も可能です。

(講習場所について。)

講習場所は国内どちらでも講習が行える場所であれば、団体の希望する場所に伺います。

(講習での講師人数について)

講師1名に4名までの講習生が最も効率的な講習を行うことが出来ます。よって多数の参加者が居る場合には相応の講師を準備する必要があります。但し、講師のデモンストレーションを参加者が見学するといった場合はこの限りではありません。

(講習会での装備について)

講師は講習会に必要な装備を用意して伺いますが、講習生も御自分の講習に必要な装備を用意していただきます。内容によっては講習が行えないといったこともありますので事前に打ち合わせた装備は必ず用意して下さい。

(講師派遣費用について)

講師一名の講師料は一日当たり30,000円。派遣に伴う、交通費、宿泊費、食費などの経費は御依頼の団体の御負担となります。また、天候悪化、交通のため講習を行えないで、講師が拘束されたと認められる場合は講師拘束料金として一日当たり20,000円を申し受けます。

(講師料の支払いとキャンセルについて)

講師料の支払いは講習会の一週間前までに協会事務局まで御支払いください。講習会のキャンセルについては一週間前(7日前)までは無料、それ以降はキャンセル料として全額を申し受けることとなりますので御注意ください。

(注意事項、その他)

安全の確保には講師が最大限の注意を払い万全の体制で臨みますので、講師の注意には必ず従うようお願い致します。講習生の皆様も自己の安全には充分注意するよう心掛けて下さい。

また、机上講習、実技講習ともにメモをとることをお勧めいたします。レスキュー技術講習ではさまざまな手法、ザイル操作を学ぶため正確に体得することが難しい場合がありますので是非メモを取り、講習会終了後に御自身で再確認されるようにして下さい。

皆様の安全は皆様自身で確保するためにもレスキュー講習会に参加して安全で楽しい登山、クライミングを御続け下さい。

レスキュー技術団体講習会申し込み用紙

代表者氏名	フリガナ
御住所	〒 ー TEL ()
団体名	名称
連絡先	TEL ()
申し込み内容	(初級、中級、上級)レスキュー講習・検定 希望場所() ご希望の日程(月 日～ 月 日)

その他通信欄

AGS-J レスキュー技術団体講習検定
 申し込み用紙（団体申し込みとは別に、各自が記入します。）

氏 名	フリガナ	血液型	性別
			男・女
生年月日	19 年 月 日 (才)		
現住所	〒 - TEL _____ (_____) _____ 携帯 _____ Email _____ @ _____		
勤務先	名称 TEL () 勤務先へのご連絡は かまわない ・ しないこと (○をしてください)		
緊急連絡先	氏名 _____ 続柄 _____ 〒 - TEL ()		
質問欄			

※団体申し込み時に添付してください。
 緊急連絡先の記入を忘れずにお願いいたします。